

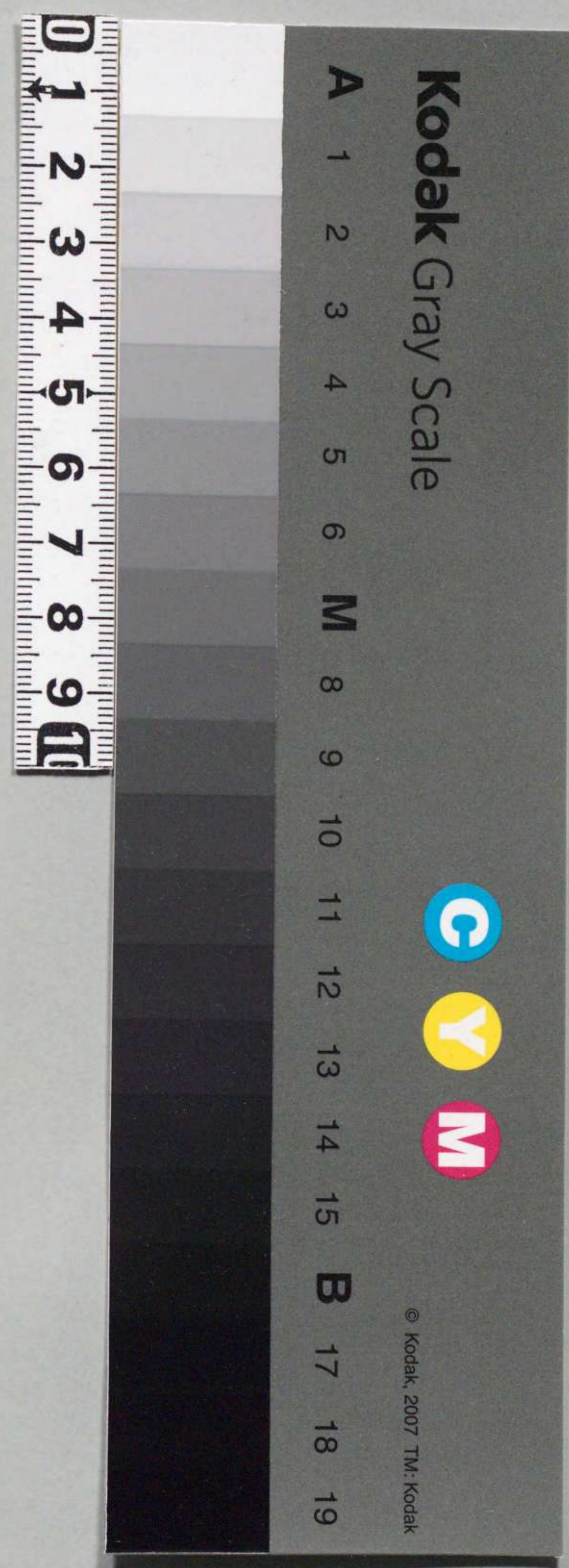
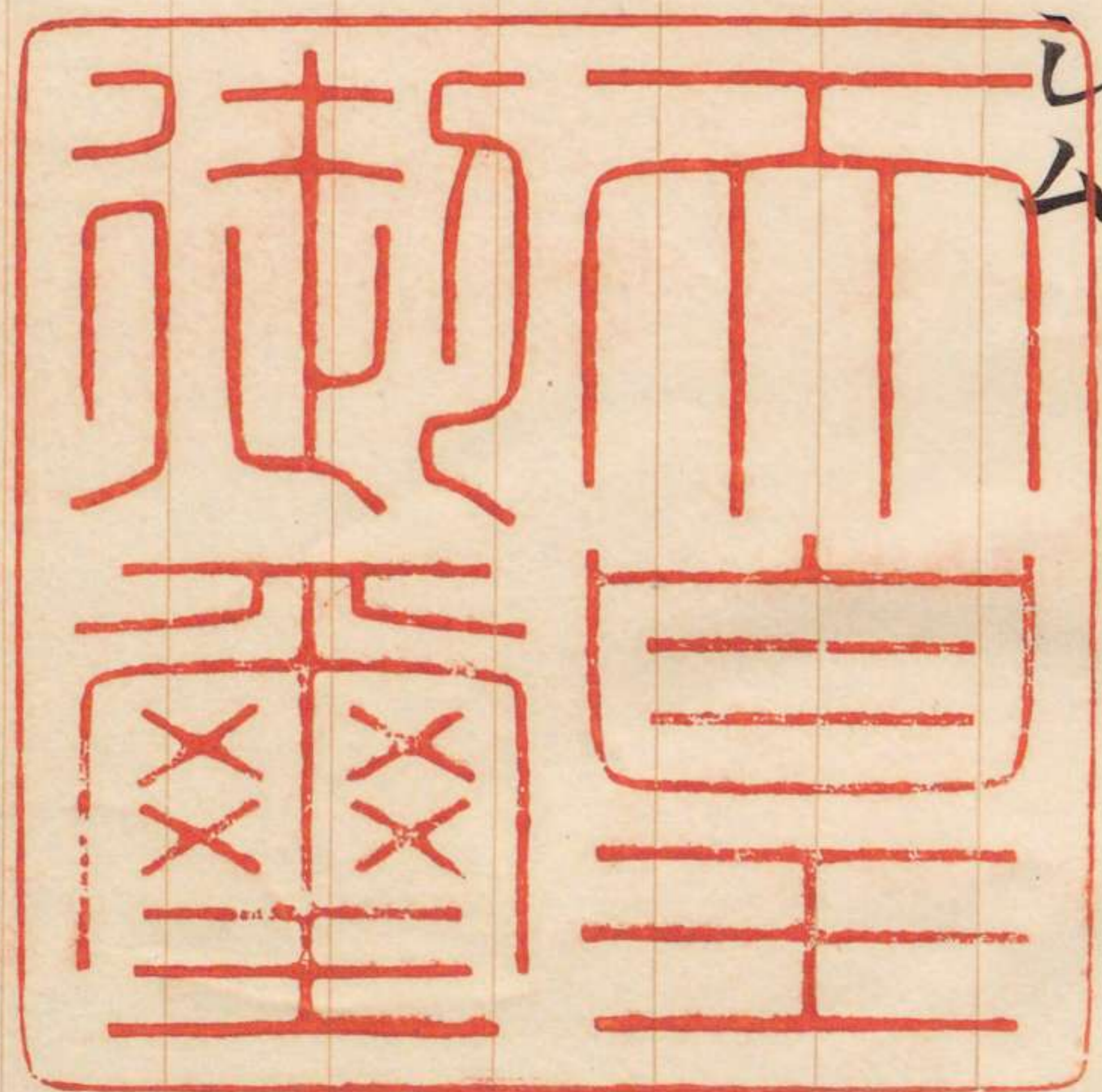
紙  
号  
初  
尾

加  
日  
加  
日  
加  
日



朕明治三十年十二月五日奧地利國維也納ニ  
於テ朕力全權委員ト奧地利洪牙利國全權委  
員ノ記名調印シタル通商航海條約ヲ批准シ  
茲ニ之ヲ公布セシム

睦仁





明治三十一年九月九日

内閣總理大臣兼外務大臣伯爵大隈重信

通商航海條約

日本國皇帝陛下及奧地利國ボヘミア國  
洪牙利國皇帝陛下ハ兩國臣民ノ交際ヲ  
皇張増進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル  
所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ  
此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存  
在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサル  
ヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基  
礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定  
シ之カ爲ニ日本皇帝陛下ハ維也納駐劄



帝國特命全權公使正四位勲二等高平小  
五郎ヲ壤地利國ボヘミヤ國洪牙利國皇  
帝陛下ハ其ノゴコセイエー、アチチーム、  
アクチエエル侍從宮内大臣兼外務大臣  
シユヴアリエー、ド、ロルドル、ド、ラトワヅ  
シ、ドール、シユヴアリエー、ド、ブルミエー  
ルクラツス、ド、ロルドル、アムペリアル、ド、  
ラクローロコス、ド、フエール、アゲノル、ゴル  
ホウスキー、ド、ゴルホウオヲ各其ノ全權  
委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ

其ノ委任状ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ  
認メ以テ左ノ通商航海條約ヲ協議決定  
セリ

### 第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版  
圖内何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住ス  
ルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體  
及財産ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受  
スヘシ

詎臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セム



カ為メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ル  
コトヲ得ヘク又詎裁判所ニ於テ其ノ權  
利ヲ伸張シ及防護スルニ付内國臣民ト  
同様ニ代言人辯護人及代人ヲ選擇シ且  
使用スルノ自由ヲ得右ノ外司法取扱ニ  
關スル各般ノ事項ニ關シテ内國臣民ノ  
享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘ  
シ  
住居權旅行權及各種動産ノ所有權及適  
法ニ獲得シ又ハ相續遺囑或ハ其ノ他ノ

方法ニ因テ移轉シ得ル所ノ各種財産ヲ  
如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ  
一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リ  
テ内國若ハ最惠國民ト同様ノ特典自由  
及權利ヲ享有シ且内國若ハ最惠國民ニ  
課セララルヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ  
多額ノ税金若ハ賦課金ヲ徴收セララル  
コトナカルヘシ兩締盟國ノ一方ノ臣民  
ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ良心ニ關シ  
完全ナル自由ヲ享有シ法律勅令及規則



ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利竝ニ其  
ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ為メ設置  
保存セララルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國  
人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ  
何等ノ名義ヲ以テスルモ詎臣民ヲシテ  
内國若ハ最惠國民ノ納ムル所若ハ將來  
納ムヘキ所ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額  
ノ取立金若ハ租稅ヲ納メシムルヲ得ス

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方

ノ版圖内ニ住居スル者ハ陸軍海軍護國  
軍民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カ  
シ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ  
一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債  
及軍事上ノ賦歛或ハ捐資ヲ免カルヘシ  
土地又ハ不動産ノ所有ヲ許可セララル  
時ニ當リテハ土地又ハ不動産ノ所有ニ  
附著スル所ノ賦課金及其ノ所有者小作  
人若ハ賃借人トシテ一般ノ内國臣民カ  
負擔スルコトアルヘキ軍事上ノ賦役及



徵發ハ前項ノ限ニ在ラス

第三條

西締盟國ノ版圖ノ間ニハ相互ニ通商及  
航海ノ完全ナル自由アルヘシ  
西締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版  
圖内何レノ所ニ於テモ總テ正業ニ属ス  
ル各種ノ生産物製造品及貨物ノ卸賣若  
ハ小賣營業ニ従事スルヲ得ヘシ右營業  
ニ従事スルニ於テ自身ニ之ヲ為シ或ハ  
代理人ヲ以テシ又ハ一人ニテ之ヲ為シ

或ハ外國人若ハ内國臣民ト組合ヲ結ヒ  
テ之ヲ為スモ隨意タルヘク又家屋店舗  
製造所及倉庫ヲ所有シ或ハ之ヲ借受ケ  
又ハ使用シ且住居工業及商業ノ為ニ土  
地ヲ借受クルコトヲ得但シ内國臣民同  
様其ノ國ノ法律警察規則及税関規則ヲ  
遵守スルヲ要ス

談臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ノ諸港及諸  
河ニシテ外國通商ノ為メ開カレ又ハ開  
カルヘキ場所へ船舶及貨物ヲ以テ自由



ニ到ルヲ得且通商工業及航海ニ関シテ  
ハ政府官吏公吏一私人或ハ會社若ハ何  
等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ  
為ニ課セラルル所ノ税金或ハ取立金ハ  
其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セス内國  
或ハ最惠國民ノ拂フ所ニ異ナルカ或ハ  
之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク内國  
或ハ最惠國民ト同一ノ取扱ヲ享有スヘ  
シ但シ常ニ其ノ國ノ法律勅令及規則ヲ  
遵守スヘキモノトス

#### 第四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版  
圖内ニ於テ住居工業若ハ商業ノ為ニ供  
スル家宅製造所倉庫店舗及之ニ属スル  
總テノ附属構造物ハ侵スヘカラス  
右家宅等ヘハ猥ニ侵入搜索スヘカラス  
又帳簿書類或ハ簿記帳ヲ検査點閱スヘ  
カラス但シ内國或ハ最惠國民ニ對シ法  
律勅令及規則ヲ以テ制定セル條件及定  
式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス



第五條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ墺地利洪牙利帝國內ニ輸入シ又墺地利洪牙利帝國內ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ税ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税ヲ課セラレルコトナカルヘシ

又兩締盟國ノ一方ノ版圖内へ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルコトヲモ禁止スルコトナカルヘシ但シ此ノ未段ノ取極ハ人身ノ安寧並ニ家畜ノ保護及農業ニ有益ナル植物ノ保護ニ必要ナル衛生上及其ノ他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第六條



両締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内へ輸出スル一切ノ物品へハ他ノ各外國へ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又両締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内へ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第七條

両締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ總テノ内地通過税ノ免除ヲ享ケ且倉入獎勵金便益及税金拂戻等ノ事項ニ就テハ内國臣民ト均等ノ取扱ヲ享クヘシ

第八條

両締盟國ノ一方ノ版圖内ニ到ル他ノ一方ノ商人工業者及注文取集旅商カ見本トシテ輸入シタル總テノ有税物品ニ對



シテハ其ノ國ノ法律ヲ以テ定メタル期  
日内ニ賣捌カレスシテ再輸出スルコト  
トナリ而シテ右再輸出ノ為メ又ハ税関  
倉庫へ送戻ス為ニ税関手續ヲ履行スル  
ニ於テハ輸出入税ヲ免除スヘシ但シ右  
見本ノ再輸出ニ付テハ西締盟國ノ版圖  
内ニ於ケル最初ノ輸入地ニ於テ其ノ輸  
入ノ際税金ニ均シキ金額ヲ預ケ入ルル  
カ又ハ擔保ヲ差入シテ之ヲ保障スヘシ  
又見本帖切り放シタル見本小片及見本

ニシテ唯々見本用ニ適スルニ過キサル  
モノハ前項掲載以外ノ方法ニ依リ輸入  
セラルルトキト雖其ノ輸入税ヲ免除ス  
ヘシ

### 第九條

國市町村若ハ團體ノ為ニスルニ論ナク  
西締盟國ノ一方ノ全版圖内又ハ其ノ一  
部分ニ於テ或物品ノ生産製造又ハ消費  
ニ對シ内國税ヲ賦課スルトキハ他ノ一  
方ノ版圖内ヨリ輸入セラレタル同種ノ



物品ニ對シテモ前記ノ全版圖内又ハ其  
ノ一部分ニ於テ同一ノ税ヲ賦課スルコ  
トヲ得ルモ之ヨリ多額又ハ苛重ノ税ヲ  
賦課スルコトヲ得ス  
同種ノ物品ニシテ前記ノ全版圖内又ハ  
其ノ一部分ニ於テ生産製造セラレサル  
カ若ハ之ニ對シテ課税セラレサルトキ  
ハ何等ノ内國税ヲモ賦課スルコトヲ得  
ス

### 第十條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港へ日本  
國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入  
セララルヘキ物品ハ亦奧地利國又ハ洪牙  
利國ノ船舶ヲ以テ同様ニ之ヲ右諸港ニ  
輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日  
本國船舶カ右様ノ物品ヲ輸入スルトキ  
課スヘキ税金或ハ雜費ノ外何等ノ名義  
ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ税金  
雜費等ヲ課セサルヘシ又奧地利國又ハ  
洪牙利國ノ諸港へ奧地利國又ハ洪牙利



國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入  
セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以  
テ同様ニ之ヲ右諸港へ輸入スルコトヲ  
得此ノ場合ニ於テハ奥地利國又ハ洪牙  
利國船舶カ右様ノ物品ヲ輸入スルトキ  
課スヘキ税金或ハ雜費ノ外何等ノ名義  
ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ税金  
雜費等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ取  
扱ハ右物品ノ直チニ原產地ヨリ到ルト  
其ノ他ノ場所ヨリ到ルトヲ問ハス必ス

之ヲ施スモノトス  
輸出ニ関シテモ前項ノ場合ト同様全ク  
均等ノ取扱ヲ施スヘシ故ニ兩締盟國ノ  
一方ヨリ適法ニ輸出シ若ハ輸出セラル  
ヘキ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依  
ルト奥地利國又ハ洪牙利國船舶ニ依  
ルトニ拘ハラス又其ノ仕向先ノ兩締盟國  
ノ一港タルト第三國ノ一港タルトヲ問  
ハス兩締盟國ノ版圖内ニ於テハ之ニ課  
スルニ同一ノ輸出税ヲ以テシ又之ニ許

内  
閣



スニ同一ノ獎勵金並ニ税金拂戻ノコト  
ヲ以テスヘシ

第十一條

政府官吏公吏一私人會社若ハ何等施設  
ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ為ニ課  
セラルル所ノ噸税港税水先案内料燈臺  
税檢疫費其ノ他之ト同種若ハ之ニ類似  
ノ税金ハ其ノ性質並ニ名義ノ如何ニ拘  
ハラス同一ノ條件ヲ以テ同様ノ場合ニ  
於テ内國船舶又ハ最惠國ノ船舶ニ課ス

ルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其  
ノ版圖内ノ港ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船  
船ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱  
ハ兩國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來  
リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互  
同一タルヘキモノトス

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ノ海港海灣船  
渠川河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶  
ノ繫留又ハ貨物ノ船積船卸ニ關スル一

内

明



切ノ事項ニ付テハ内國船舶ニ許與セザル特典殊遇ハ均シク他ノ一方ノ締盟國ノ船舶ニモ許與セザルヘシ但シ本件ニ關シテモ亦西締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ對シ互ニ全ク均等ノ取扱ヲ施スニ在ルモノトス

第十三條

西締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律勅令及規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然

レトモ墺地利洪牙利帝國內ニ於ケル日本國臣民又ハ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル墺地利國又ハ洪牙利國臣民ハ總テ沿海貿易ノ事項ニ關シテハ各右法律勅令及規則ニ依リ他ノ外國民ニ許與シ若ハ許與セラルヘキ權利及特典ヲ享有スルモノトス

墺地利國又ハ洪牙利國ノ二箇以上ノ港ヘ其ノ全部若ハ一部ヲ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶及

内 蜀



日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以上ノ  
港へ其ノ全部若ハ一部ヲ仕向ケタル荷  
物ヲ外國ニ於テ積載シタル奧地利國又  
ハ洪牙利國船舶ハ其ノ國ノ法律及税関  
規則ニ從ヒ外國貿易ヲ許サレタル仕向  
港ノ一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ  
而シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩  
餘ヲ陸揚スル為メ他ノ一港若ハ數港へ  
進航スルコトヲ得ヘシ  
日本國政府ハ又本條約ノ期限間是迄ノ

通り帝國諸開港場間ニ荷物ノ運搬ヲ繼  
續スルコトヲ奧地利國及洪牙利國船舶  
ニ許與ス尤大坂新潟及夷港ハ此ノ限ニ  
在ラス

第十四條

西締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ  
暴風又ハ其ノ他ノ理由ノ為メ已ムヲ得  
ス他ノ一方ノ海港ニ於テ避難スルモノ  
ハ右ノ如キ場合ニ於テ内國船舶ノ拂フ  
ヘキ税金ノ外何等ノ税金ヲモ拂フコト

内 期



ナク其ノ港ニ於テ修繕ヲ為シ必要ナル  
一切ノ需用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得  
ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ  
支辨スル為メ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却ス  
ルヲ要スル場合ニハ諛船長ハ其ノ寄港  
地ノ規則及税目ヲ遵守スヘキモノトス  
西締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ  
他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀬ニ乗上ケ或  
ハ難破シタルトキハ地方官ヨリ最近地  
方ニ在ル所ノ總領事領事副領事又ハ代

辨領事ヘ直チニ其ノ旨ヲ通知スヘシ  
墺地利國又ハ洪牙利國管轄水面ニテ難  
破シ若ハ淺瀬ニ乗上ケタル日本國船舶  
ノ救助ニ関スル一切ノ手續ハ墺地利國  
及洪牙利國法律勅令及規則ニ從テ之ヲ  
為スヘク又相互ノ主義ニ基キ日本國皇  
帝陛下ノ所領水面ニテ難破シ若ハ淺瀬  
ニ乗上ケタル墺地利國又ハ洪牙利國船  
舶ニ関スル一切救助ノ處分ハ日本國ノ  
法律勅令及規則ニ從テ之ヲ為スヘシ



右難破若ハ乗上ケタル船舶並ニ其ノ器具及其ノ他一切ノ附属品及該船舶ヨリ救上ケタル貨物並ニ商品及右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之ヲ賣却シタルトキハ其ノ收得金並ニ該遭難船内ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ内國法律ニ定メタル期限内ニ當該總領事領

事副領事或ハ代辦領事ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官持主或ハ代理人ハ内國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費並ニ難破救助費及其ノ他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス

難破船ヨリ救上ケタル貨物及商品ハ内國ノ消費ニ充ルニ非サレハ一切ノ関稅ヲ免除スヘシ但シ消費ノ為ニ賣捌ク場合ニハ普通ノ関稅ヲ納ムルヲ要スルモ

内  
關



ノトス

西締盟國ノ一方ノ臣民ニ属スル船舶ニ  
シテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ淺瀬ニ乗  
上ケ或ハ難破シタルトキ其ノ持主船長  
若ハ他ノ持主代理人不在ノ場合ニハ當  
該總領事領事副領事若ハ代辨領事ハ其  
ノ自國臣民ニ必要ノ補助ヲ與フル為メ  
職權上ノ助力ヲ為スヲ許サルヘキモノ  
トス此ノ規定ハ持主船長若ハ他ノ代理  
人現ニ其ノ場ニ在ルトキト雖右様ノ輔

助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用  
スヘキモノトス

第十五條

本條約ヲ適用スルニ方リ日本國ノ國法  
ニ從ヒ日本國船舶ト者做サルヘキ一切  
ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト者認メ又奧地  
利國又ハ洪牙利國ノ國法ニ從ヒ奧地利  
國又ハ洪牙利國船舶ト者做サルヘキ一  
切ノ船舶ハ之ヲ奧地利國又ハ洪牙利國  
船舶ト者認ムヘシ

内 胡



第十六條

兩締盟國ノ一方ニ属スル軍艦或ハ商船ノ海負ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ脱船スル者アルニ際シ右船舶所属國ノ領事又ハ其ノ代理官ヨリ其ノ捕獲引渡ノコトヲ地方官ニ依頼スルトキハ該地方官ハ其ノ権力ノ及フ限り該脱船人ヲ捕獲シ且之ヲ引渡ス為メ助力ヲ為スヲ要スルモノトス

但シ海負カ其ノ各自ノ所属國ニ於テ脱

船ニタルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモノト知ルヘシ

第十七條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲシテ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ取扱ヲ享受セシムルノ主意ヲ有スルニ因リ通商及航海ニ関スル一切ノ事項ニ関シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府船舶或ハ國民ニ現ニ許與シ或ハ将来許與スヘキ一切ノ特典殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ニモ即時



二且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキ  
コトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十八條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版  
圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履  
行スルトキハ專賣特許、意匠、雛形製造標  
商標、商社號及商號ニ関シ内國臣民ト同  
一ノ保護ヲ受クヘシ

第十九條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港都府

及其ノ他、領事、領事、副領事、領  
事代及代辦

シ領事官ノ、  
クコトヲ得ヘシ但

シ領事官ノ、  
記許スルニ便宜ナラ

サル場所ハ此  
限ニ在ラス

然レトモ右ノ制  
限ハ他ノ諸外國ニ對シ

之ヲ適用スル  
非サレハ一方ノ締盟國

ニ對シテ之ヲ適  
用スルヲ得サルモノト

ス

總領事、領事、副領事、領事代及代辦、領事ハ  
一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得且其ノ

内  
明



二且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキ  
コトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十八條

兩締盟國ノ一ノ臣民ハ他ノ一方ノ版  
圖内ニ於テ法ニ定ムル所ノ手續ヲ履  
行スルトキハ賣特許意匠雛形製造標  
商標商社號及號ニ関シ内國臣民ト同  
一ノ保護ヲ受ク

第

兩締盟國

ノ一方ノ海港都府



及其ノ他ノ場所ニ總領事領事副領事領  
事代及代辨領事ヲ置クコトヲ得ヘシ但  
シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラ  
サル場所ハ此ノ限ニ在ラス  
然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ  
之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締盟國  
ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得サルモノト  
ス

總領事領事副領事領事代及代辨領事ハ  
一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得且其ノ



在留國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許  
與ニ或ハ許與セラレヘキ一切ノ特典特  
權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキモノト  
ス

第二十條

西締盟國ハ左ノ取極ニ同意スヘシ  
日本國ニ在ル各外國人居留地ハ夫夫其  
ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ爾後日本  
國市區組織ノ一部トナルヘシ  
然ル上ハ日本國當該官吏ハ右ノ新組織

ヨリ生スル施政上ノ責任ヲ悉皆負擔ス  
ヘシ又右外國人居留地ニ属スル共有資  
金及財産アルトキハ當然之ヲ右日本國  
官吏ヘ引渡スヘキモノトス  
前記ノ變更ヲ終リタルトキハ該居留地  
内ニテ外國人カ現ニ因テ以テ不動産ヲ  
所持スル所ノ永代借地契約書ハ有效ノ  
モノト確認セラレヘシ而シテ右ノ如キ  
性質ノ不動産ニ對シテハ特ニ右借地契  
約書ニ規定シタルモノノ外ハ何等ノ條



件ヲモ附セズ又何等ノ租税賦課金取立  
金ヲモ徴收セサルヘシ但シ右借地契約  
書中ニ領事官トアルハ日本國官吏ヲ以  
テ之ニ代フヘキコトト知ルヘシ  
右居留地内ノ地所占有権ハ将来ニ於テ  
ハ從來或場合ニ於ケルカ如ク領事官廳  
若ハ日本國官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要  
セズシテ其ノ占有者ヨリ自由ニ之ヲ日  
本國人若ハ外國人ニ讓渡スコトヲ得ヘ  
シ

公共ノ目的ノ為ニ日本國政府ヨリ無借  
料ニテ貸與シアル各地所ハ永久總テノ  
租税賦課金及取立金ヲ課スルコトナク  
最初貸與シタル時ノ目的ニ永代使用セ  
ラルヘシ但シ國土領有ノ大権ニハ從フ  
ヘキモノトス

### 第二十一條

本條約ノ規定ハ現ニ兩締盟國ノ一方ノ  
関税ヲ施行シ若ハ将来施行スヘキ國土  
ニモ適用スヘキモノトス



第二十二條

本條約ノ全部實施ノ日ヨリ明治二年九月十四日即西曆千八百六十九年十月十八日ノ條約及西締盟國ノ間ニ締結シ右實施期日以前ニ現存スル一切ノ取極及約定ハ總テ無効ニ歸シ隨テ奧地利洪牙利國領事裁判所カ日本國ニ於テ執行シタル裁判權及右裁判權ニ関シ奧地利國又ハ洪牙利國臣民カ享有セシ所ノ特典特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ

通知ヲ為サスシテ當然消滅ニ歸スヘシ而シテ此ノ時ヨリ奧地利國及洪牙利國臣民ハ日本國裁判所ノ裁判權ニ服従スヘキモノトス

第二十三條

本條約ハ第十八條ヲ除クノ外ハ日本國皇帝陛下ノ政府ニ於テ之ヲ實施セムト欲スル旨ヲ奧地利洪牙利帝國ニ通知シタル後一箇年ヲ經ニ非サレハ實施セラレサルモノトス但シ如何ナル場合ト雖



千八百九十九年七月十七日以前ニハ之  
ヲ實施セサルモノトス又本條約ハ其ノ  
實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スル  
モノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ  
十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリト  
モ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ  
一方へ通知スルノ權利ヲ有スへシ而シ  
テ此ノ通知ヲ為シタル後十二箇月ヲ經  
過シタルトキハ本條約ハ全然消滅ニ歸

スヘキモノトス

本條約第十八條ハ本條約批准交換ノ日  
ヨリ實施セララルヘシ而シテ兩締盟國ニ  
於テ別ニ之ニ及スル取極ヲ為ササルト  
キハ本條約ノ他ノ條項效力ヲ失フニ至  
ル迄其ノ效力ヲ有スヘシ

奧地利洪牙利國ハ何時ニテモ本條約第  
五條第一項ヲ廢止スル旨ヲ通知スルヲ  
得ヘシ而シテ右通知ヲ為シタルトキハ  
右條項ハ通知ノ日ヨリ十二箇月ヲ經テ



無効ニ歸スヘキモノトス

第二十四條

本條約ハ西締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其  
批准ハ可成速ニ維也納若ハ東京ニ於テ  
交換スヘシ

右証據トシテ西國全權委員ハ之ニ記名  
調印スルモノナリ

明治三十年十二月五日即西曆千八百九  
十七年十二月五日維也納ニ於テ本書  
二通ヲ作ル

高平小五郎印  
ゴルホウスキー印



天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル  
日本國皇帝御名此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス  
朕帝國ト墺地利洪牙利國トノ交際ヲ永  
久親睦ナラシムコトヲ欲シ明治三十  
年十二月五日維也納ニ於テ兩國全權委  
員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各  
條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕  
ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條  
約ヲ嘉納批准ス



神武天皇即位紀元二千五百五十八年明治三十一年三月二十二日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣男爵西德二郎印

議定書

下名ノ全權委員ハ本日締結ノ通商航海條約ニ調印スルニ際シ左ノ取極ニ同意セリ

第一 條約第一條ニ付

日本國政府ハ奧地利國及洪牙利國臣民ノ為ニ全國ヲ開ク迄ハ該國臣民ニ對シ現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトニ同意ス即奧地利國及洪牙利國臣民力在東京奧地利洪牙利國



公使館若ハ日本國開港場ニ駐在ス  
ル墺地利洪牙利國領事館ヨリノ紹  
介證書ヲ所持シテ出願スルニ於テ  
ハ十二箇月ヲ超エサル期間國內何  
レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券  
ヲ東京外務省若ハ開港場所在地地  
方長官ヨリ交付スヘシ但シ日本帝  
國ノ内地ニ旅行スル墺地利國及洪  
牙利國臣民ニ適用スヘキ現行ノ法  
律規則ハ之ヲ保續スルモノト知ルヘシ

第二 條約第一條及第三條ニ付

兩締盟國ハ其ノ一方ノ臣民カ他ノ一方  
ノ版圖内ニ於テ内國臣民ト同様不動  
産抵當權ノ取得及占有ヲ許スコト同意ス

第三 條約第一條及第十九條ニ付

兩締盟國ハ領事官ノ職權民刑事事件  
ニ関スル司法事務ノ幫助及犯罪人  
引渡ニ関シ特別ノ取極ヲ以テ之ヲ  
規定スル迄ノ間ハ相互ニ最惠國ノ  
取扱ヲ許與スルモノトス



第四 條約第五條ニ付

本日調印シタル通商航海條約批准交換後一箇月ノ後ハ現今墺地利洪牙利帝國ヨリ日本國ニ輸入スル貨物ニ對シテ施行スル輸入税目ハ無効ニ歸スルモノトス右税目ノ無効ニ歸シタル後ハ日本國ニ輸入スル墺地利洪牙利國ノ生産若ハ製造ニ係ル貨物ニ對シテハ日本國ノ新関税則及日本國ト諸外國トノ間ニ締結シタル

ル條約ニ規定セル特別税則ヲ適用スルモノトス而シテ兩締盟國間ノ現行條約有效ナル間ハ其ノ第二十条ノ規定ニ依リ爾後ハ本日調印シタル條約第五條及第十七條ノ規定ニ依テ擔保セル最惠國ノ取扱ヲ維持スルモノトス他日日本國ノ関税則ニ改正ヲ加フルコトアルトキハ墺地利洪牙利帝國ノ生産若ハ製造ニ係ル貨物ニ



適用スル六箇月前ニ之ヲ公布スヘ  
キモノトス

純良ナラサル藥材製藥食物若ハ飲  
料猥褻ノ印刷物圖書書籍紙牌石版  
若ハ彫刺畫又ハ其ノ他公安若ハ風  
俗ヲ妨害スヘキ物品若ハ日本國及  
奧地利國洪牙利國ニ於テ發明ノ專  
賣特許商標及版權ヲ規定スル法律  
ニ違背スル物品ノ輸入ヲ制限シ若  
ハ禁止スヘキ日本國及奧地利洪牙

利國ノ權利ハ本日調印シタル條約  
本議定書及追加條約ニ記載スル規  
定ノ為ニ制限セラルルコトナカル  
ヘキモノトス又此ノ相互ノ權利ハ  
人身衛生ヲ目的トシタル禁止又ハ  
家畜ノ保護及農業ニ有益ナル植物  
ノ保護ニ必要ナル禁止ニモ適用ス  
ヘキモノトス

本日調印シタル條約及本議定書ヲ  
以テ擔保セラレタル関稅ニ関スル



最惠國主義ヲ適用スルニ方リ實際  
上不満足ト認メラシタル場合ニ於  
テハ西締盟國ハ各特ニ重要ナル物  
品ニ適用スヘキ協定稅則ヲ議定ス  
ルコトニ同意スヘシ  
前項ノ實施ハ之ヲ他日ニ保留シ西  
締盟國ハ本日調印シタル追加條約  
ヲ以テ千九百三年十二月三十一日  
迄特ニ重要ナル或物品ニ適用スヘ  
キ輸入方法ヲ約定セリ

此ノ外總テノコトニ付テハ現行條  
約及其ノ附屬諸約定ハ本日調印シ  
タル通商航海條約ノ實施セラルル  
ニ至ル迄ハ其ノ效力ヲ有スヘキモ  
ノトス

第五 條約第十八條ニ付

西締盟國ハ專賣特許意匠雛形ノ保  
護ニ関シテ別ニ條約ヲ締結スルコ  
トアルヘシ而シテ之カ為メ適當ノ  
時期ニ至リ相當ノ商議ヲ開クヘシ



日本國政府ハ日本國ニ於ケル墺地利洪牙利國領事裁判權ノ廢止ニ先  
夕チ工業所有權ノ保護ニ關スル列  
國巴里條約ニ加入スヘキコトヲ約  
ス

第六 條約第二十二條ニ付

日本國內ニ於ケル墺地利洪牙利國  
ノ領事裁判權ハ本日調印シタル通  
商航海條約全部ノ實施ト同時ニ自  
然ニ消滅スルニ拘ハラス右條約全

部實施ノ時ニ當リ既ニ審理中ニ係  
ル總テノ事件ニ關シテハ其ノ最終  
判決ニ至ル迄ハ該裁判權ヲ繼續ス  
ルコトニ同意ス

本議定書ハ其ノ附屬シ居ル所ノ條約ノ  
批准交換ヲ終ルト同時ニ別ニ正式ノ批  
准ヲ要セスシテ兩締盟國ニ於テ之ヲ可  
認セシモノト看做スヘシ  
本議定書ハ前記條約ノ無効ニ歸スルト  
同時ニ效力ヲ失フヘキモノトス



右證據トシテ兩國全權委員八本議定書ニ記名調印スルモノトス

明治三十年十二月五日即西曆千八百九十七年十二月五日維也納ニ於テ本書二通ヲ作ル

高平小五郎印

ゴルホウスキー印

追加條約

下名ノ維也納駐劄日本國皇帝陛下ノ特命全權公使及奧地利國ボヘミア國及洪牙利國皇帝陛下ノ外務大臣ハ本日締結セラレタル通商航海條約附屬議定書ノ規定ニ基キ左ノ條款ヲ約定ス

第一條

日本國ノ新関稅則(前記通商航海條約第五條ニ関スル議定書第四項第一節)實施セラルルト同時ニ奧地利洪牙利帝國ノ



生産若ハ製造ニ係ル左記ノ物品ニハ日  
本國ニ輸入ノ際左ノ税ヲ課スヘシ

品目

從價税率

一 庖厨用具 皿鉢竝ニ 泔藥

ヲ施シタル其ノ他ノ鐵

板及鋼板製ノ器具(彩色

ニ若ハ彩色セサル) 百ニ付十

一 ラシプ各種竝ニ 金屬製

若ハ玻璃製ノ部分品及

附属品

同 十

一曲々木製家具類(各種ノ) 同 十

一 珠玉金銀細貨類(假製ノ) 同 十

一 釦鈕類(各種ノ) 同 十

一 玻璃製品(クリスタル玻

璃及玻璃類(窓玻璃ヲ除

ク) 同 十

一 殺蟲粉 同 五

一 馬 無 税

從價税ハ仕入地産出地若ハ製造地ニ於  
ケル商品ノ原價ニ其ノ仕入地産出地若



ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ル迄ノ運搬費  
及保險料ヲ加ヘ又手數料アルトキハ之  
ヲモ加ヘテ算定スヘキモノトス

第二條

奥地利洪牙利國ノ物品カ日本國ニ於テ  
前記ノ取扱ヲ享クル日ヨリ日本帝國內  
ノ生産若ハ製造ニ係ル物品ハ奥地利洪  
牙利國ノ關稅施行版圖内ニ輸入ノ際最  
惠國ノ取扱ヲ享有スヘシ  
日本國ノ生産若ハ製造ニ係ル左記ノ物

品ニハ奥地利洪牙利國ノ關稅施行版圖  
内ニ輸入ノ際左ノ輸入稅ヲ課スヘシ

品目

(百キログラムニ付金  
貨フロリレノ稅率)

一蠶繭及未々絲ニセサル

屑物

無稅

一生絲(繰リタル又ハ捻

リタル)

無稅

一絲屑物(生ノ)

無稅

一純絹布類(無地ノ)

二百フロリシ

一麥稈サナタ各種平紐ノ

内 蜀



形ヲ為シタル但他物  
ヲ交ヘサル

ニフロリシ

一壁紙

十八フロリシ

一磁器

第一 白地ノ

五フロリシ

第二 著色シタル縁

取シタル描キ

タル形付ノ及鍍

金若ハ鍍銀シ

タル

十フロリシ

一生銅(古銅ノ断片及

屑トモ)

無 税

第三條

本追加條約有效期限中日本國ニ於テ追  
加條約第一條ニ記載セル商品ニ對シ一  
層利益アル取扱ヲ第三國ニ許與シタル  
場合ニハ本日調印シタル通商航海條約  
附屬議定書中第五條ニ關スル第四項ノ  
規定ニ基キ澳地利洪牙利帝國ノ生産若  
ハ製造ニ係ル同一ノ商品ニモ右同様ノ



取扱ヲ適用スヘキモノトス  
又本追加條約有効期限内ニ墺地利洪牙  
利國ニ於テ本追加條約第二條ニ記載セ  
ル商品ニ對シ第三國ノ為ニ猶一層低減  
シタル輸入税ヲ許與シタル場合ニハ日  
本國ノ生産若ハ製造ニ係ル同一ノ商品  
ニモ亦右低減シタル輸入税ヲ適用スヘ  
キモノトス

#### 第四條

本追加條約ハ日本國ノ新関税則實施ノ

日ヨリ効力ヲ生シ千九百三年十二月三  
十一日迄存續スルモノトス

墺地利洪牙利國ニ於テ本日調印シタル  
通商航海條約第二十三條ノ規定ニ基キ  
該條約第五條第一項ヲ無効ニ歸セシム  
ルノ意思ヲ通知シタルトキハ本追加條  
約ハ右通知ノ日ヨリ十二箇月ヲ經タル  
後無効ニ歸スヘキモノトス  
本追加條約ハ本日調印シタル條約ノ批  
准交換ヲ終ルヲ以テ別ニ正式ノ批准ヲ



要セスシテ兩締盟國ニ於テ之ヲ可認セ  
シモノト看做スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本追加條  
約ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年十二月五日即西曆千八百  
九十七年十二月五日維也納ニ於テ本  
書二通ヲ作ル

高平小五郎印

ゴルホウスキー印